

旧上瀬谷通信施設における基盤整備及び国際園芸博覧会の開催に向けた取組状況について

1 横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業審査委員会

(1) 開催状況

保留地等の事業提案を公募し、郊外部の新たな活性化拠点の形成を推進する事業の適正な実施を図るため、横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業審査委員会（以下「審査委員会」）を設置し、11月に第1回の審査委員会を開催しました。

【参考1】委員名簿（五十音順・敬称略、◎：委員長 ○：副委員長）

分野	氏名	現職等
景観	岩村 和夫	東京都市大学 名誉教授
観光	楓 千里	國學院大學 観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 教授
都市計画	◎ 岸井 隆幸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事
法務	佐藤 麻子	弁護士法人 R&G 横浜法律事務所
緑	竹内 智子	千葉大学 大学院 園芸学研究院 准教授
環境・農業	○ 村上 暁信	筑波大学 システム情報系 教授
金融・経済	山口 直也	青山学院大学 大学院 会計プロフェッション研究科 教授

【参考2】第1回審査委員会概要

開催日時	議題
令和4年11月16日	1 委員長の選出等 2 委員会の運営について 3 旧上瀬谷通信施設地区活用事業について 4 その他

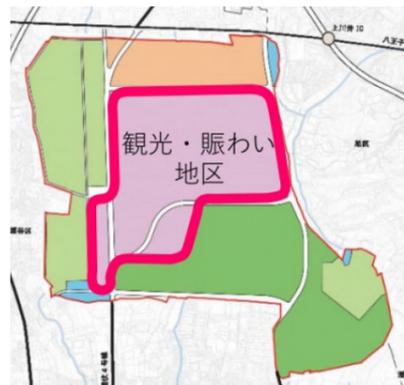
(2) 旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（「別紙」参照）

旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（令和2年3月策定）をより具体化し、観光・賑わい地区の事業者公募において、地区全体で目指す姿を提案者にメッセージとして示すことで、質の高い提案を引き出し、より良い土地利用を誘導することを目的に、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート（以下、「デザインノート」）を策定することとし、（案）として取りまとめました。

今後、デザインノート（案）の市民意見募集を行うとともに、審査委員会や市会のご意見等も踏まえ、策定・公表していく予定です。なお、デザインノートについては、募集要項の付属資料として公表する予定です。

(3) 観光・賑わい地区の事業提案募集スケジュール（予定）

- R4年12月 デザインノート（案）市民意見募集（12/21～1/20）
- 第2回審査委員会開催（12/22）
- R5年2月 第3回審査委員会開催
- 募集要項・デザインノート公表、事業提案募集
- R5年夏頃 事業予定者の決定



2 土地区画整理事業の進捗状況

令和4年10月5日に、市施行による土地区画整理事業について事業計画決定しました。

また、土地区画整理事業区域内道路及び周辺道路の一部に係る都市計画手続に着手し、11月に市素案説明会をオンライン及び旭区・瀬谷区内の会場で開催しました。

引き続き、地権者の皆様との仮換地に向けた調整や、都市計画手続等を進めていくとともに、今後、工事に着手していきます。

本格工事着手に向けて、安全を期すために、汚染土壌の除去等や地中障害物の調査を実施します。



【参考3】今後のスケジュール（予定）

年度	令和4	令和5～8	令和9	令和10～15	令和16～20
事業予定	10/5 事業計画決定 10/31 米軍施設撤去工事契約 11/18-12/19 市素案説明会 12/21～1/20 デザインノート（案）市民意見募集	R5年秋頃 仮換地指定 都市計画手続（市街化編入、地区計画等）	国際園芸博覧会	本格工事 換地処分	清算期間

※地権者調整、都市計画手続に伴い、事業計画変更を予定しています。

3 2027年国際園芸博覧会基本計画について

(1) 意見募集の経緯について

博覧会協会は、国際園芸博覧会の基本計画案について、令和4年7月24日に公表し、同日から1か月間、意見募集を博覧会協会のHPで行いました。

(2) 意見募集結果について

意見総数 387 件（投稿数：299 通） ※主な意見：右表参照

(3) 基本計画のとりまとめについて

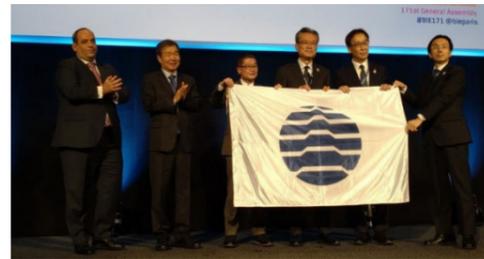
基本計画については、現在、博覧会協会において、意見募集の結果を参考とし、あわせて有識者からも意見をいただきながら、最終的な取りまとめを行っています。

基本計画の公表については、博覧会協会において、必要な手続きを経た上で、1月上旬に意見募集でいただいた意見への回答とともに行われる予定です。

4 BIE 認定について

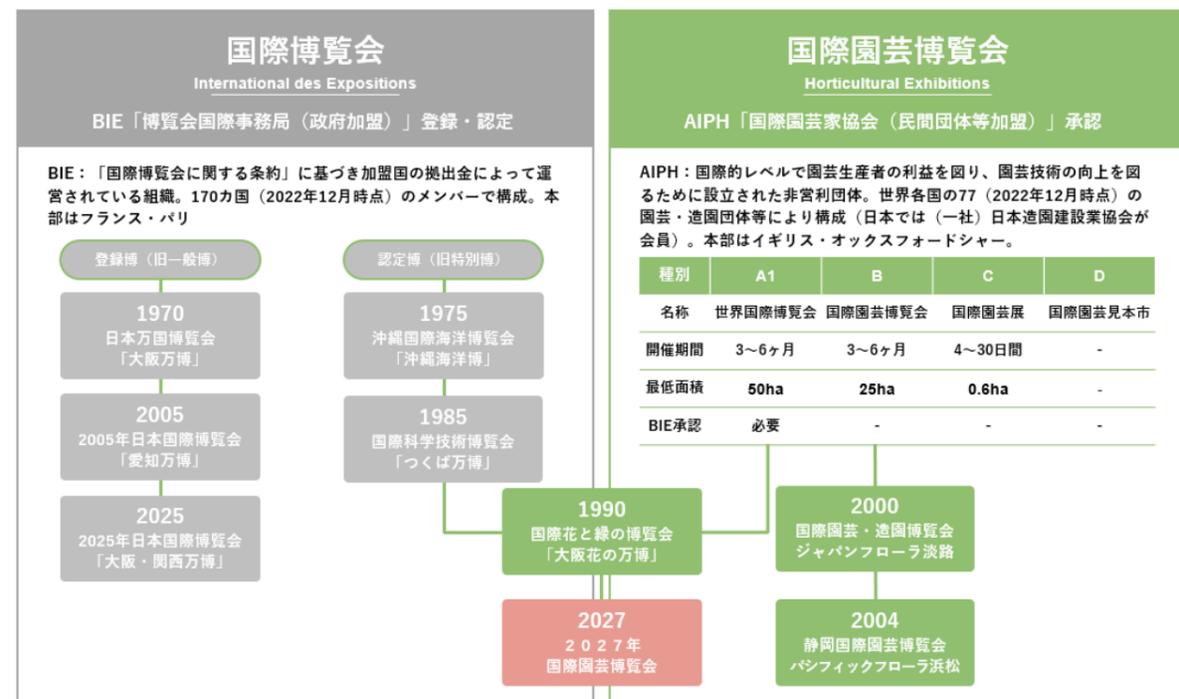
11月28日にフランスで開催されたBIE（博覧会国際事務局）総会において、2027年国際園芸博覧会が国際条約に基づく国際博覧会として認定されました。

これにより、令和元年のAIPHからの承認と合わせて、A1クラスでの国際園芸博覧会の開催が正式に決定しました。



BIE 旗の引渡セレモニーの様子

【参考4】国際博覧会と国際園芸博覧会の関係



《基本計画案への主な意見》

会場での取組について 43 件	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型のエリアを多くしてほしい。大人も子供も楽しめるアトラクションを期待する。 ・最先端技術を採用した資源の循環を体現した取組を実施してほしい。 ・会場エリアは市内でも昆虫や植物の宝庫であり、在来の生き物サンクチュアリーを区域として設けて欲しい。 ・園芸博覧会であるのだから、暑さ対策の主役は植物であるべき。木陰を十分に作ることや、多様なグリーンカーテンや施設の壁面緑化などに力を注ぐべき。
自然環境の保全について 37 件	<ul style="list-style-type: none"> ・計画段階から、地域の自然地形、それを形成している樹木などをできるだけ活かした会場づくりをすべき。 ・横浜・瀬谷の海軍道路の桜並木の伐採は花博の趣旨 SDGs に反し、多くの市民が親しんできた貴重な自然環境を破壊するもので反対。旧上瀬谷通信施設跡地の現在の自然環境を保全し、上瀬谷の豊かな自然を生かしたまちづくりをすべき。 ・川を暗渠化し谷戸を埋め立て、そこに生きる動植物の生息環境を奪い、種の多様性を喪失させ、庭園を作ることが持続可能な街づくりの姿なのか疑問である。
事業コンテンツについて 25 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自然をテクノロジーで表現するプログラムは、例えば日中に会場全体にかかる大きな虹を創出したり、夜は花をテーマにしたイルミネーションを充実させ、昼と夜両方を楽しめるコンテンツを作る必要がある。 ・一過性で終わらない、体験やプロセスを重視したワークショップが出来ると良い。（蚕、コンポスト、押し花、野点）
交通渋滞対策について 25 件	<ul style="list-style-type: none"> ・会場付近の道路は一車線しかなく、現在でも渋滞しているところが多い。周辺住民の生活に支障のないよう、会場周辺の一般道路も計画的に整備してほしい。 ・輸送計画については地域の方の理解を得ながら検討を進めてほしい。
来場者数について 22 件	<ul style="list-style-type: none"> ・有料入場者数 1000 万人を可能とする根拠が薄く、過大である。 ・開催期間が 3 月～9 月の半年とのことであるが、本日も猛暑日予報、期間中の三分の一が 7 月 8 月、これだけの入場者数が見込めると思えない。
庭園・展示について 22 件	<ul style="list-style-type: none"> ・一時たりとも花を絶やささない。会場全体がガーデンネックレス状態になってこそ横浜の庭です。 ・季節の花だけでなく、日本各地の花が見られるように植栽を行う。北海道から沖縄まで、その土地特有の植物が見られるようにする（期間限定でいい）。 ・どんな植物を見せてくれるのか、具体的なことを書くべきです。つまらないお土産屋ではなく、花と緑を満喫させて下さい。全国、全世界に花と緑を好きな人はたくさんいます。こんな世相だからこそその博覧会にして下さい。家族で楽しみたいと思います。
レガシー計画について 22 件	<ul style="list-style-type: none"> ・博覧会後も緑豊かな景色が広がっているとよいと思います。 ・植物の保護、維持のコストを考えると宿根草等を使ったガーデンを見てみたいです。

5 今後のスケジュール（予定）

令和4（2022）年度	基本計画・意見及び回答公表、開催1500日前イベント、開催4年前イベント
令和5（2023） ～令和6（2024）年度	公式キャラクター発表、 展示・出展参加者募集、会場整備着工
令和7（2025） ～令和8（2026）年度	行催事参加者募集、チケットプロモーション、 公式ガイドブック発行、国際園芸博覧会開催（令和9年（2027年）3/19～）
令和9（2027）年度	国際園芸博覧会開催（～9/26）